

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000256		
法人名	社会福祉法人すばる		
事業所名	グループホームこもれび ユニットA		
所在地	〒069-0823 江別市緑ヶ丘24-20		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	平成28年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000256-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者一人一人の人生や生活がどうだったのかを理解し、日々の支援を行っている。様々な変化に対しても、入居者、ご家族、職員が相談しながらケアを見直している。
2. 人を支える職員自身が、自分を高める努力を行っている。
3. ご家族の立場になり、小さな情報も連絡、報告することを心掛け、実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)ホームの環境： 閑静な住宅街にあって、コンビニなど商店も近く、交通に至便。ホームの設備は2階建て2ユニット、居間・食堂・浴室等を囲み、居間とトイレを配置し、介護機能が効果的に取り込まれている。
- 2)職員の姿勢・態度： 職員は利用者の心身の状況や日々の生活の様子の理解に努めて、相互の情報交換を図り、真摯な支援に努めている。
- 3)家族・利用者の満足： 家族の訪問頻度もよく、職員の専門的な対応や情報交換の適切な内容に好感と信頼を示している。
- 4)運営推進会議の開催状況： 会議は包括支援センター、地域関係者、家族代表等と交え、運営状況の詳細を報告して、参加者と意見を交換し運営に反映するとともに、議事録にまとめ家族に周知している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り時に事業所理念を唱和し、理念を職員全員が把握、理解している。理念を記した紙を名札に入れて持ち歩いている。	“歩んだ人生を理解し、尊厳と安心な生活、役割を維持し、自らを高め、地域のつながりを大切に”実践理念を掲げて、利用者個々の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員となり、町内会総会や行事に参加している。屋外を散歩するときは地域住民と積極的に交流を図り、ゴミ拾いなどで地域貢献をしている。	町内会の一員の務めを利用者とともに役割の一端を務めるよう行事等の交流、ごみ収集日の参加、散歩時の挨拶の交換など身近な活動に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居を問わず、電話、訪問相談、施設見学に対応している。また市内のグループホームの事業所と共同で、市民向けの認知症講座を開催している。事業所内で認知症サポーター養成講座を開催し、職員と家族が参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者2名が参加。委員からの意見、質問、要望をいただいている。職員へ還元してサービス向上に活かしている。	会議は地域関係者、包括支援センター、家族関係者を交えて運営情報の詳細を報告書にして意見・情報交換をし、運営に反映している。また議事録は家族等に送り運営状況の周知に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所、空室状況等の毎月報告、事故報告、運営推進会議の報告などで事業所の実情やケアの取り組み等を報告し、疑問やわからない点は市の担当者に相談し助言を受けている。	運営状況の詳細を報告書にして定例の報告(入退所・空き情報・事故報告等)とともに、行政の指針等を伺い協議を図って運営に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、オートロックを使用。入居者、家族が出入りする時は、職員が同伴させて頂き、安全で自由なケアに取り組んでいる。	職員は利用者個々への拘束禁止の意味・内容の理解と共有に努め、利用者の虐待や人権を損なうことのないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が感じたことや、支援に迷った時は、タイムリーに検討する機会を設け、わからないことをそのままにしない環境作りに努めている。虐待防止に関する外部研修にも参加し、伝達講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人による支援を受けている方がいるので、その方の事例を通し、職員にも権利擁護について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族の状況を理解し、相手の立場になり解りやすい説明を心掛けている。個々の疑問や不安に関しても、電話、面会等いつでも相談できる環境を作り、信頼関係に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。月初報告や日々のご家族への連絡、面会時などに家族からの意見を伝え易くなるような環境づくりをしている。	利用者 の意向や状態把握には家族の意見もよく聴き、訪問時の面談を専門職として大切な機会としている。この機会が家族の職員への好感度の高さととなっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問点の解決、情報の共有化、支援の適正化を目的に、毎月一度定期的にカンファレンスを開催。職員の意見が表明できる雰囲気づくりに努めている。日々、管理者と職員がコミュニケーションを図ることができるような環境を作っている。	日常の申し送りと記録、行事運営の前後の役割と検証など、定例会議の各職位による利用者の問題や解決課題を明確にして、各業務の質的内容を協議し、各自の意見を運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜、または希望時に職員と面談を行っている。疑問や要望などは内部で検討するほか、必要に応じて法人に伝え、改善を求めている。また資格取得した職員や実績のある職員は正社員への登用を行うことで向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を収集し、スタッフルームに資料を掲示。全員が何らかの研修に参加できるよう、計画的に取り組んでいる。法人内部の研修会にも可能な限り多くの職員に参加してもらうよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内のグループホーム関係者と毎月一度、定期的に会合を持ち、情報交換している。また法人内のグループホームで毎月管理者会議を開催し、情報交換の場としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み相談時より、生活の中での支障や、入居予定者が置かれている状況を把握し、安心して入居できるように努めている。習慣や日課などを理解するためのアンケートを渡している。入居直後から入居者とのコミュニケーションを図り、要望等の聞き取りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アンケートや事前聞き取りで、得られた情報をもとに、ご家族と十分な話し合いを行い、くみ取れる要望を慎重に判断し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報と、アセスメントで得た必要とされる支援を見極め、家族との連携、インフォーマルサービスの支援を含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それまでの生活状況、身体能力等を把握し、今までしていた事を、できる限り今まで通りの生活ができるよう、必要な支援のみ行っている。職員自身が一緒に生活しているという意識をもつことをたびたび確認している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	家族が気軽に会いに来て頂ける雰囲気を作っている。広報誌やこまめな連絡を行い、入居者がどのように暮らしているのかわかるよう伝えている。生活の中で検討が必要なおことが出て来た時は、家族も交えて話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解のもと、友人などのなじみの人に面会をしていただいたり、季節ごとに入居者と手紙を制作し、発送するなど関係をつなげていく支援を行っている。	家族となじむ家族会、利用者で出かけるイチゴ狩り、園内の誕生会や季節の行事、家族の協力を得た友人との交流等それぞれの馴染みの機会を工夫して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間関係ができています。毎日の生活の中でお互いの理解を深め、支え合い助け合えるような関係を徐々に作ってきています。状況によっては職員が介入するなどの配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行ったり、連絡・相談に対応するなど本人、家族の不安や迷いが解決できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、言語と言語以外での表現を見落とさないようにアセスメントし、ニーズが達成できるよう、計画に反映するよう努めている。	職員の利用者理解への思いが、利用者の言動やしぐさを観察し、働きかけて、その意向の把握に努め、記録して、職員相互の理解を図って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に入居予定者、家族からの聞き取りで生活歴や今までの生活の様子を把握するよう努めている。得られた情報を職員全員で共有、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり、見守りの中で入居者それぞれの希望する過ごし方をできるだけ尊重している。多方面から入居者の状況を観察し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月おきのケアプラン見直しを行っている。月に一度のケア会議において職員全員でモニタリング、暮らしの様子や気になることなどを検討している。状態の変化があるときは、都度ユニット毎のミニカンファレンスを実施している。	日常の利用者の観察記録を基に、定例に各職位の意見を交換して利用者個々の解決課題を明らかにして介護計画の作成に生かしている。計画書は家族の意向を含め承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別経過記録の他、申し送りノートを活用し、日々の細かな連携と職員間での情報共有に努め、適宜カンファレンスを実施し、介護計画の作成や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かし、入居者や家族の要望に対し、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練には町内会の理解を頂き、協力支援を頂いている。回覧板等で町内会行事などのお知らせをいただいております。参加を検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、協力病院の訪問診療が適切に行われている。今までかかっていた医療機関や、希望の医療機関にかかることを継続することも自由に選択できる。	利用者個々のかかりつけ医を大切に職員が支援している。月2回の協力病院の訪問診療とあわせ、その結果をまとめて、訪問看護師の協力を得て職員相互の共通理解を図り支援に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度(火曜日)に訪問看護の定期訪問を受け、入居者の健康状態や気になる点などを相談している。来所時以外でも24時間の連絡体制をとっているため、都度相談と、場合によっては臨時訪問を要請している。必要に応じ協力病院や主治医を受診するようアドバイスをもらい、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり、病院関係者と病状の把握と情報交換を行い、状況の把握を行っている。退院に向けては得られた情報をもとにホーム内でカンファレンスを開催し、復帰後の体調維持や、生活に戻る為の環境づくりについて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、該当者はいないが、契約時、指針の説明と同意書を提示し、十分な説明を家族に行っている。今後、職員間で重度化、終末期についての勉強会を開催したい。	重度化等に関する事態については対応指針の同意に基づき、急変時の支援、協力病院との連携、看取りの場合の看護・介護支援方法を確認している。	現在、重度化等の該当者がいない状態だが、「対応指針」の内容について職員相互の緊急対応について具体的な対応訓練の実施を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを配置し、個人の病状による判断手順はプランに載せるなど、具体化させている。消防署や関係機関で実施される救命救急講習や各種研修に順次参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力を得て、年2回の消防訓練を実施している。毎月、防災(主に火事)に関する内部研修を実施している。災害備蓄品と道具の準備を進めている。	年2回の関係当局の示唆とともに想定訓練を実施するとともに、緊急対応備蓄、備品の整備に努めている。	近年想定外の災害も多く、関係当局と地域関係者との密度の高い対応や相互の役割協議を重ねられることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳が守られるよう、個々の状況に応じながら言葉や態度に十分気を付け接している。	職員は実践理念を心に銘記して、個々への真摯な姿勢と優しく、よく傾聴して利用者理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状況に合わせて意向を表出できるような環境を整え、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの希望に合わせて、過ごし方や過ごす場所などを自由に選択していただいている。活動なども参加するかどうかを事前に確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに合わせておしゃれが出来るよう、必要に応じて一緒に考え、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの有する能力に応じ、食事の下準備や食器洗い、テーブル拭き、茶碗拭き、下膳、床掃除等職員と一緒にやっている。入居者のリクエストを聞き、献立の工夫をしている。調理の場面を見たり香りを感じて、食事が楽しみとなるような環境を作っている。	食事の機会は皆の楽しみ多いひと時であり、職員とともに準備や後片付け、食事を通して各自の嗜好や味を確かめるなど、献立の工夫に生かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は基本1日1000～1500ccを目安に計量して提供。法人の管理栄養士の指示のもと栄養バランスのとれた献立が立てられ、1日1600kcalを目安としている。塩分制限がある方は汁物の量などで調整している。個々の状態に応じて主食量などを微調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後と起床時に口腔ケアを実施。能力に合わせて促し、見守り、声掛け、介助の支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄を主体に、時間を要してもできる動作は自力で行う支援を行っている。本人のサインを見逃さず、パターンの把握ができるよう職員が連携している。パッド類の使用も最低限とし、外す工夫をしている。	排泄の自立を支援の柱として、各自のパターンや動きの把握、パッド類の適切な使用について配慮しつつ、自然で自立的な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握、十分な水分摂取、乳製品やオリゴ糖の使用、適切な運動と食事を心がけ取り組んでいる。必要に応じて、主治医への相談の上で下剤や整腸剤等を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、自分の入り方で癒しの入浴になるよう配慮している。保湿剤が入った入浴剤を使用し、ドライスキン予防とリラクセス効果が得られる様に工夫している。	週2回の入浴は利用者個々の状態や意向を伺いながら、保湿剤や入浴剤を工夫して用い、入浴の効果を工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、心身状況、排泄パターンなどを把握し、昼夜にとらわれず本人に合わせて、良眠できる環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別ファイルに保管し、生活状況と見比べて、副作用や効果の有無を確認している。フェースシート、アセスメントにも記載し、職員間で情報共有している。状況に応じ、訪問看護師、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの希望や生活歴などを把握し、掃除や食事の準備、食後の食器拭きなどを行ってもらっている。散歩やドライブ、外出、外食に出掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、夏、秋は周辺の散歩と毎月の外出行事を企画、実施している。近所の店舗への買い物や、ちょっとしたドライブなどへ不定期ではあるが出かけている。冬期間は外出機会が少ないが、ご家族と一緒に散歩や買い物等にお出掛けすることもある。	冬季を除き四季の変化を楽しめる散歩の機会や外出行事を年間に企画して楽しい思い出作りを工夫している。園内には思い出写真を掲出し、家族にも送っている。また日常的な買い物や家族との外出などに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて、個々に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を自由に利用して頂いている。能力に応じた内容で、はがきや年賀状を書き、ご家族等へ送っている。手紙やハガキが届くと、すぐに入居者へ渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの扉の色や、洗面台の高さを2種類用意するなど工夫している。採光やライトの強さなどは、その時々で調整している。ゆっくり食事に集中できるよう作業音を制限、リラックスできる音楽を流している。廊下には季節ごとに装飾品を替えて楽しんで頂いている。	利用者の利便性を考えた設備の色彩や高さに留意するとともに、皆が集まる居間の彩光や温度・湿度の管理、行事等の思い出写真や作品を掲出して馴染みある空間づくりに工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の横にのれんで仕切られた小さな和風の部屋がある。1人、もしくは気の合う者同士で話せる個別の空間と、全員が集える居間のそれぞれを選択できる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力新しい物を購入せず、なじみのあるものを持参いただくようご家族に伝えている。自宅で使用していた物、大切なお仏壇や思い出の品も一緒に持参して頂いている。	各自の居室は家族とともに馴染みの関係者の写真や家具調度を備え、心身の状況に合わせた座椅子やソファの配置など利便性と居心地づくりの支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉の色や、洗面台の高さの工夫。食卓テーブル、食卓椅子の高さもカットし適切な高さに調整。トイレには誘導灯を立体にして設置。入居者ができることを活かせるよう配慮している。		